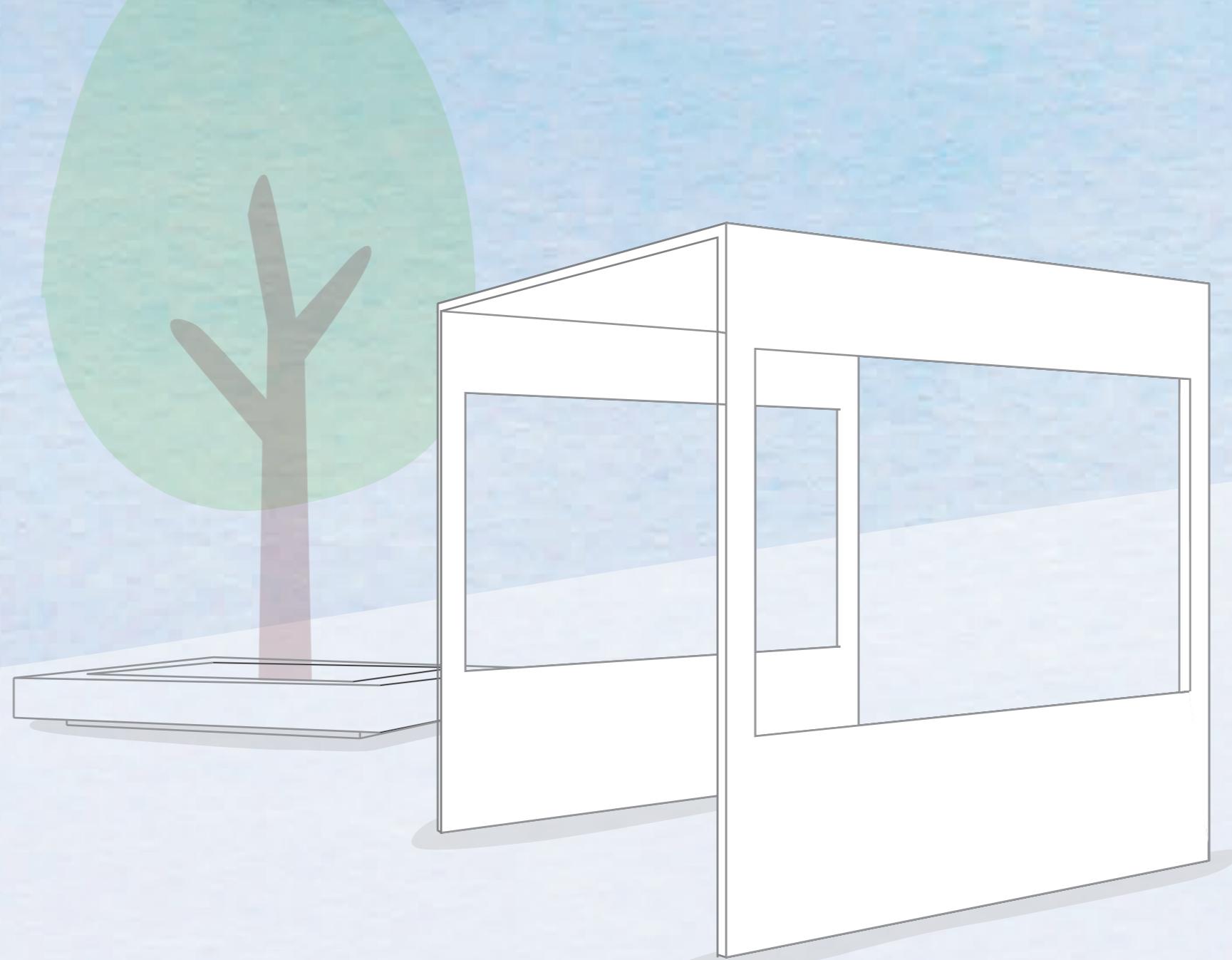


つれてってマチ

いつものマチに 白いマド。

マドの先にはいつもとちがう 物語。

「いってみようかな。」



人がマドを前にした時、無意識に感じる外部への好奇心。

人は街へ出掛けたくなる。

マドが元来持っている価値に着目し、方向を操作しながらマドを街中に散りばめることで、街の奥へと人々を呼び込む。

人の動きを街全体に促すことで大井町への回遊性と滞在性の向上を計る。住人にとって誇りとなり、来訪者にとっては街を訪れるきっかけとなるランドマークを提案する。



ふと外を見てみると

そこには 白いマドが立っていて

入ってのぞいてみると
いつもとちがうマチが見えてきた。

ちょっと足をのばしてみよう。

新しいお気に入りの場所見つけたよ。

マドからマチへ 始まるつぎの物語。

